



# 令和7年度行政評価

政策1 誰もがいつでも成長し続け、輝けるまち

(令和6年度 事業実施分)

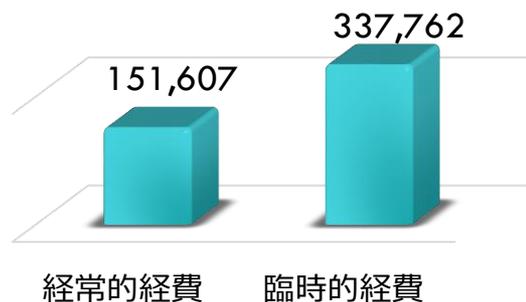
## 政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

## 施策01 生涯学習の充実

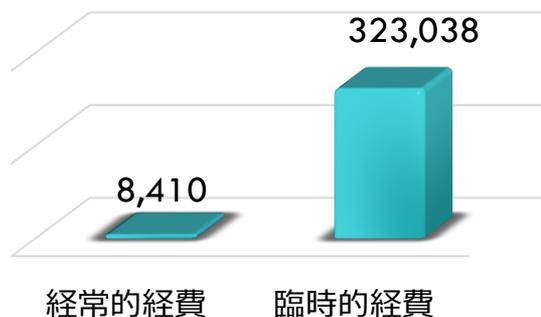
## 施策の方向性・目標（総合計画より）

幅広い世代の市民が、さまざまな分野での知識や技術を習得し、学んだことを発揮することができる生涯学習のための環境が整っています。地域の教育力の向上により、市民一人ひとりが、学ぶ楽しさ、喜び、充実感の中で成長し、生きがいを感じながら生き生きと暮らせるまちを目指します。

経費の内訳（千円）



特定財源の活用（千円）



※特別会計は除く

## 現状と解決すべき課題

## 【「学び」の環境づくり】

- ・地域全体で生涯学習を推進していくため、地域、家庭、学校、NPO等が連携した地域の教育力の向上が求められています。
- ・家庭教育に関する学習機会を設け、子育て家庭を地域全体で支援するとともに、青少年を取り巻く環境変化を踏まえながら、関係機関と連携して健全育成への取組を行う必要があります。

## 【魅力ある図書館づくり】

- ・現在の図書館は小規模であり、図書及びICT関連資料の展示、閲覧、保管などのスペースが限られ、駐車場も十分でないことから、施設の整備が必要です。
- ・市民が気軽に利用し、世代を通じて図書に親しむことができるよう、利便性やサービスの向上が求められています。

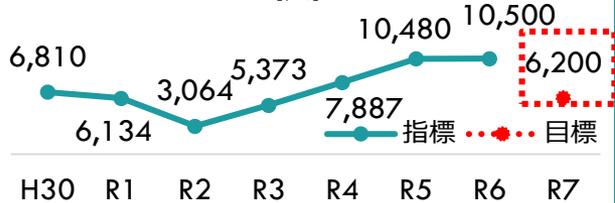
## 【公民館活動の充実】

- ・趣味に関する講座に比べ、学びを中心とした講座が少ない傾向です。身近な学びの場として多様なニーズに応え、市民の自己実現を促進する公民館事業を展開する必要があります。
- ・若年層から高齢者まで幅広い世代の方に参加いただけるよう、公民館事業についてより多くの方への周知が必要です。

## 成果指標（達成したい目標）

### 小中学生に関わる地域の支援者数

(人)



#### 成果指標の分析

適切なコロナ対策を行いながら工夫して活動の場の創出に努めたことにより、目標値を大きく上回ることができた。

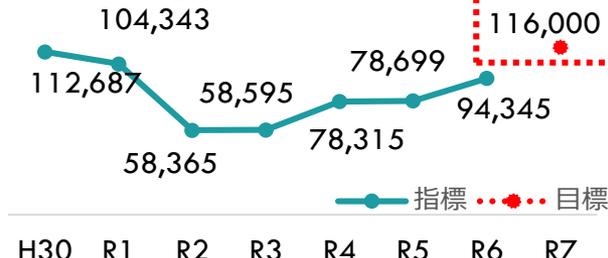
### 市民一人あたり図書貸出冊数（冊）



#### 成果指標の分析

貸出冊数については、R5から本館は増加していたが、日生及び吉永分館については減少していた。分館の蔵書等の充実や利用促進を図る。

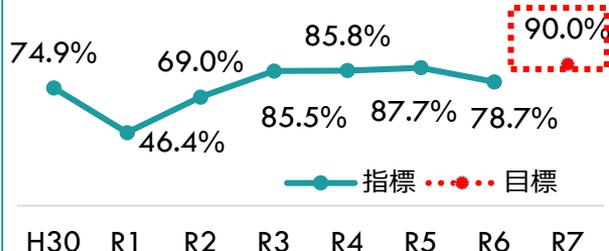
### 公民館利用者数（件）



#### 成果指標の分析

新型コロナウイルス感染症の適切な対策と利用促進を並行して行ったことで利用者数も増加した。引き続き利用促進に注力し目標達成を目指す。

### 公民館講座募集定員の充足率



#### 成果指標の分析（任意指標）

各年度で実績値の変動はあるものの、引き続き、地域の社会教育の拠点として、幅広い年代やニーズに応えられる講座を企画し行っていく。

指標の説明

【小中学生に関わる地域の支援者数】 「地域学校協働本部」及び「まなび塾+」支援者の年間延べ人数

【市民一人あたり図書貸出冊数】 貸出冊数÷人口

【公民館利用者数】 市内全公立公民館(16館)の年間の総利用者数

【公民館講座募集定員の充足率】 応募者数÷定員

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行 (万円)	アウトプット (どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム (どれだけの成果が得られたか)
「学び」の環境づくり	地域学校協働本部事業	地域と学校の連携・協働活動	236	市内9本部 1 1 学校で実施	支援者数（延べ）10,500人
「学び」の環境づくり	備前まなび塾＋土曜日・長期休業講座	公民館を活用した学習支援	192	市内10公民館で25回程度ずつ実施	登録者数（率）175人（12.2%） 対象者：市内小学3年生から中学3年生の1,426人
魅力ある図書館づくり	図書館運営事業（図書館）	読書推進行事	29	市立図書館3館で9行事を実施	参加者数（延べ）2,035人
公民館活動の充実	公民館講座事業（中央公民館）	幅広い世代の方に参加できる講座を行う	11	5講座	募集定員の充足率70.0%
公民館活動の充実	公民館講座事業（日生地域公民館）	親子対象の体験型の講座を行う	10	2講座	募集定員の充足率77.5%
公民館活動の充実	公民館講座事業（吉永地域公民館）	幅広い世代の方に参加できる講座を行う	4	4講座	募集定員の充足率67.1%

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 (課題解決状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域学校協働本部事業では、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が、2協議会（4校）で設置され、地域学校協働活動推進員2名の委嘱を行いました。</li> <li>○図書館利用者の増加を図るため、従来の「図書館だより」の発行、市広報・HP」に加えて、SNS（ライン、インスタグラム）による広報の充実を図ってまいります。またスマート図書館の利用促進にも努めてまいります。</li> <li>○公民館活動では、幅広い世代のニーズに応じた講座の開催を行いました。</li> </ul>
	生涯学習課長 川淵 裕之 図書館活動課長 杉田 和也	【翌年度の取組目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティ・スクールの全校設置に向け、引き続き伴走支援を行ってまいります。</li> <li>○新図書館の開館に向けて蔵書の充実と運営体制を整備してまいります。また読書推進行事についてもアイデアを出し合い参加者の増加につなげていきます。</li> <li>○公民館活動では、地域の学習拠点としての機能を発揮し「生活文化を高める事業」「地域生活に根ざす事業」など学習機会の提供を行ってまいります。</li> </ul>

一次評価者	役職	生涯学習部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年度より学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が2協議会（伊里小中、吉永小中の4校）で設置され、その取り組みが開始されました。未設置の学校を含め支援していきましょう。</li> <li>○中央公民館はビーテラスへの移転などの変化がありますが、引き続き利用者サービスに努めていきましょう。</li> <li>○図書館が新設されることにより、課題となっていた蔵書の充実と快適な閲覧スペースが提供できるようになります。誰もが自由に無料で利用できる第三の居場所として、また地域の交流拠点としての役割を担い、まちの魅力を高めていきましょう。</li> </ul>
	氏名	杉田 和也	

## 政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

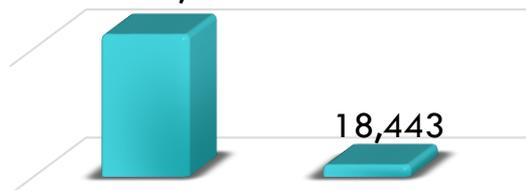
## 施策02 就学前の教育、保育等の充実

## 施策の方向性・目標（総合計画より）

認定こども園（以下、「こども園」という。）、保育園、民間の小規模保育園、認可外保育施設の環境が整い、家庭保育と就園児の両方が等しく幼児教育を受けられるまちを目指します。また、支援を必要とする就園児には地域の子育て機関などと連絡を密にし、こども園・保育園・小学校の積極的な連携により、子どもの発達や学びの接続ができていくまちを目指します。

経費の内訳（千円）

222,245

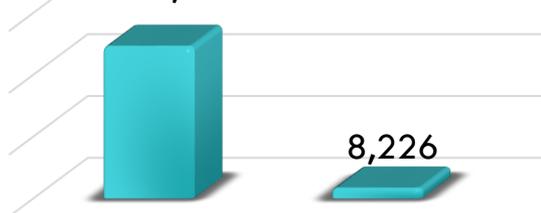


経常的経費

臨時的経費

特定財源の活用（千円）

122,995



経常的経費

臨時的経費

※特別会計は除く

## 現状と解決すべき課題

## 【待機児童の解消】

・保育料の無償化により、0～2歳児の入園希望者が増加した結果、待機児童が発生し入園したい園に入れない家庭があるため、待機児童解消へ向けた対策が必要です。

## 【保育士・保育教諭の人材確保】

・0～2歳児における保育料の無償化により保育需要が増大しているため、受入れに対応できる保育士・保育教諭の確保が必要です。

## 【支援が必要な園児への対応】

・支援が必要な子どもが増えており、保育士配置基準以上の保育士を配置する必要があるため、保育士・保育教諭の人材確保が必要です。

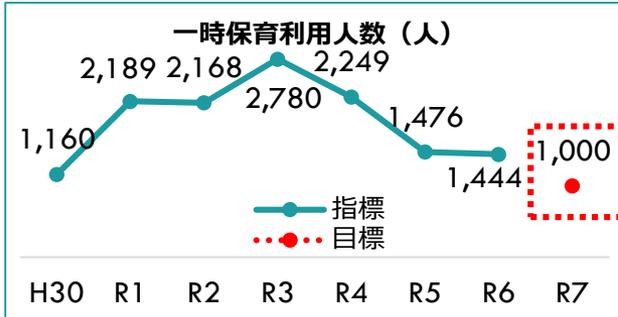
## 【保護者等からの相談対応】

・保護者等からの相談対応については、保育士・保育教諭が複数名、長時間の対応を求められるケースも多いため、保育士・保育教諭のサポートが必要です。

## 【こども園・保育園と小学校との連携】

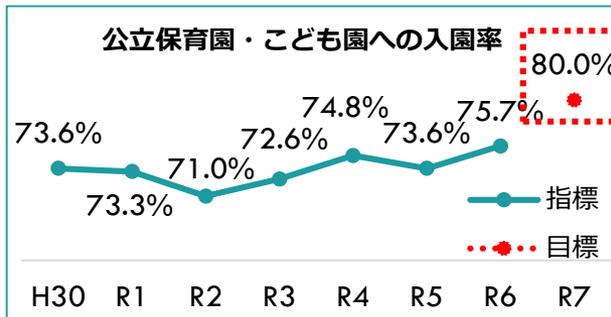
・こども園・保育園の5歳児から小学校1年生へ、互いの交流を促進し、子どもたちの成長や学びの状況について円滑な引き継ぎが必要です。

## 成果指標（達成したい目標）



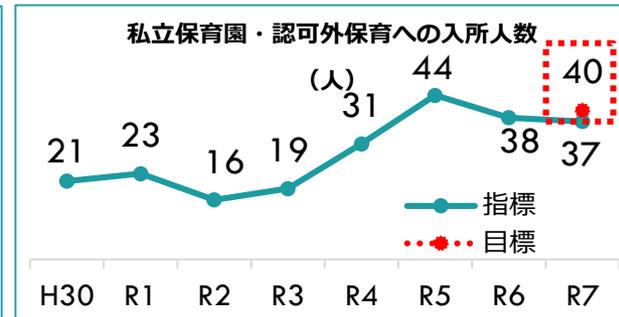
### 成果指標の分析

児童数の減少や園を利用する児童が増えたことなどから、利用児童数は減少傾向にある。



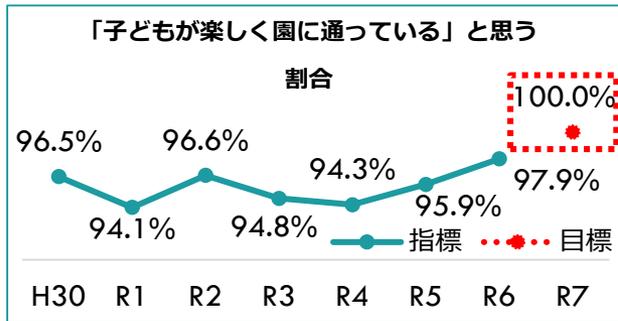
### 成果指標の分析

保育料の無償化等の影響により入園率は増加傾向となっている。



### 成果指標の分析

市内小規模保育所の整備などにより、ほぼ目標値を達成することができた。



### 成果指標の分析

保護者アンケートによる満足度は概ね高い水準で推移している。

### 指標の説明

- 【一時保育利用人数】 伊部・日生・吉永認定こども園の年間一時保育利用人数の合計
- 【公立保育園・こども園への入園率】 全入園児数÷0～6歳未満の人数
- 【「子どもが楽しく園に通っている」と思う割合】 保護者アンケートにより回答のあった割合

課題に対する主な取組

課 題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行 (万円)	アウトプット (どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム (どれだけの成果が得られたか)
待機児童の解消	小規模保育所整備事業	NPO法人が整備する小規模保育所整備に対して補助する。	5,083万円	私立保育園への運営扶助費	待機児童数の減少 (R元年度末:19人→R6年度末:1人)
待機児童の解消	認可外保育施設等利用助成金	認可外保育施設等に入所する児童の保護者に対して保育料を助成する。	614万円	認可外施設の利用助成金 (対象児童 26人)	
保育士・保育教諭の人材確保	保育ICT化推進事業	保育士の業務改善により保育の質向上のため園のICT化を進める。	289万円	園のネットワーク構築、保育業務支援システムの導入	登降園の管理や保護者への連絡等がスムーズにできたことにより、保育教諭等の業務負担を軽減することができた。
支援が必要な園児への対応	職員研修委託事業	支援が必要な園児の把握、適切な支援に向けた研修を行う。	73万円	職員研修の実施回数 (市内こども園 33回)	支援対象児童 86人
こども園・保育園と小学校との連携	接続カリキュラムの推進	接続カリキュラムによる取組みを進めるとともに内容を検証する。	322万円	接続教育マネージャーを1名配置	こども園と小学校との交流促進及び情報共有を図ることができ、就学前から小学校への円滑な接続ができた。
ALTを活用した外国語教育環境の充実と周知	A L T 配置事業	全ての公立こども園・保育園にALTを配置する。	697万円	ALTを2名配置	英語を自然に口にするなど、英語や異文化を身近なものとしてとらえる園児が増えた。
物価高騰下での就学前教育・保育に係る保護者負担軽減	給食賄材料費・保育材料費の納付免除	保育園・こども園に在園する児童に係る給食費・保育材料費の納付免除	5,682万円	納付免除した延べ人数 7,692人	子育て世帯の経済的負担を軽減でき、経済的な不安を解消することができた。

課題に対する主な取組

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 (課題解決状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○待機児童の解消に資するため、私立保育園の運営支援や認可外施設利用助成を継続しています。同時に保育教諭の人材確保にも取り組んでおり、待機児童数は減少しています。</li> <li>○支援の必要な園児への適切な対応や保育教諭のサポートとして職員研修やメンター制度の取組を継続しています。</li> <li>○小学校への円滑な引継のため、交流促進や情報共有により円滑な接続ができました。</li> </ul>
	幼児教育課長 文田 栄美	【翌年度の取組目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て支援の充実や保育教諭等の人材確保の取組により、市民満足度は高く待機児童も減少しています。</li> <li>○今後は、多様化する保育ニーズや国の進める新たな子育て政策に対応するため、研修等を通じた保育教諭等の人材育成や業務負担の軽減に向けた取組により、質の高い保育の提供を目指していきます。</li> </ul>

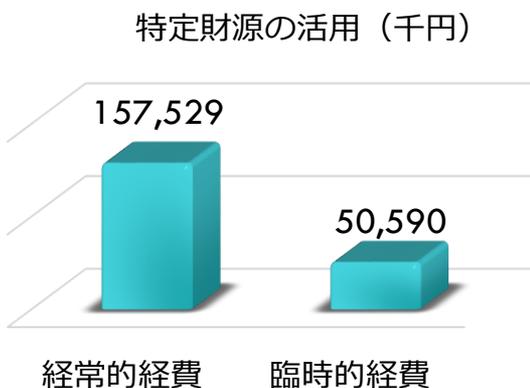
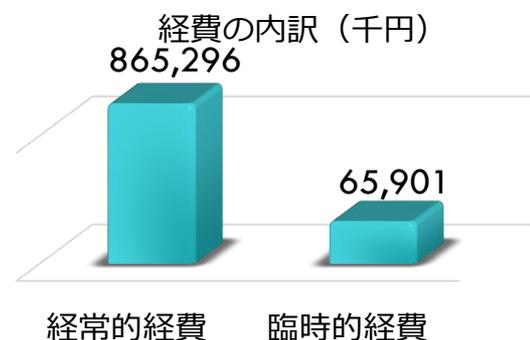
二次評価者	役職	教育振興部長	○少子化により待機児童も解消傾向にあります。子どもたちが安心して成長できる環境整備、教諭の人材育成、働きやすい環境を整えることが大切です。引き続き関係機関とも連携して、安全・安心な環境整備、保育の質を高めていくことを進めていきましょう。
	氏名	久保山 仁也	

## 政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

## 施策03 学校教育の充実

## 施策の方向性・目標（総合計画より）

子どもたちが、主体的に学ぶことができる環境を整備し、学びに出会う機会を充実させることにより、備前市で学んだことに誇りを持ち、これからの時代を生き抜く力を獲得できる教育が行われ、「生きる力」「創造する勇気」「郷土を愛する心」を育むことができるまちを目指します。



※特別会計は除く

## 現状と解決すべき課題

## 【ICT環境を活用した教育の充実】

・教職員のICT機器活用スキルの上昇やICT機器活用による授業改善に向けた取組が必要です。

## 【ALTを活用した外国語教育環境の充実と周知】

・ALT全校配置後の学力調査結果には外国語教育環境充実の効果が表れています。しかしながら、保護者や地域の方々とのALT活用イメージの共有が十分とは言えません。家庭・地域・学校が一体となり、外国語教育環境をより効果的に活用するためには、情報発信の充実及びフィードバックを踏まえた活用方法の一層の充実が必要です。

## 【学校図書館司書全校配置による教育環境の充実と周知】

・学校図書館司書が全校配置され、効果的な活用がなされています。しかしながら、保護者や地域の方々との学校図書館司書の活用イメージの共有が十分とは言えません。家庭・地域・学校が一体となり、学校図書館をより効果的に活用するためには、情報発信の充実及びフィードバックを踏まえた活用方法の一層の充実が必要です。

## 【片上高等学校の魅力化推進及び周知】

・継続的に片上高等学校の教育活動の特色や魅力の強化と周知が必要です。

## 【学校の再編整備の検討】

・少子化が進んでおり、学校規模が小規模化している中、効果的な学校運営や教育機会の均等の観点から学校規模の適正化と地域における学校の重要性とのバランスが必要です。

## 【学校等教育施設の老朽化対策】

・昭和40～60年代に集中的に施設が整備されているため、老朽化が進み、将来一斉に更新時期を迎えるため、計画的な改修や更新対応が求められています。また、バリアフリー化等の施設の整備も必要です。

## 成果指標（達成したい目標）

### ICT活用スキル達成度 ・ICT環境満足度（%）



R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7

#### 成果指標の分析

令和6年度末、市独自の調査で「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」という質問に対して、肯定的な回答が小学校（5・6年）93.7%、中学校93.1%であった。

### 外国語教育環境満足度（%）



H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7

#### 成果指標の分析

令和7年度全国学力・学習状況調査の質問紙「英語の勉強は大切だと思いますか。」という質問項目がなくなったため、実績値としての計上ができない。

### 貸出冊数・学校図書満足度（%）

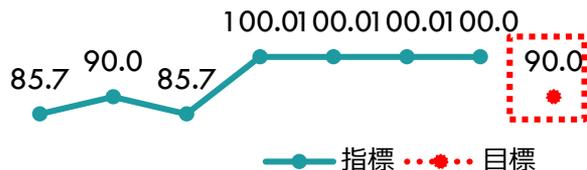


R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7

#### 成果指標の分析

令和3年度：小学生：101冊/人 72%  
中学生：22冊/人 70.1%  
令和4年度：小学生：79冊/人 73.4%  
中学生：24冊/人 67.4%  
令和5年度：小学生：86冊/人  
中学生：24冊/人  
令和6年度：小学生：87冊/人 63.6%  
中学生：20冊/人 66.0%

### 希望進路意識・進路決定率（%）



H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7

#### 成果指標の分析

片上高等学校におけるキャリア教育の充実が推進されている。年度によって数値は変わってくるものの概ね目標値並みとなっている。

指標の説明

【ICT活用スキル達成度・ICT環境満足度】 ICT活用スキル達成度(教員)とICT環境満足度(児童生徒)の平均値（備前市学習環境に関する調査より）

【外国語教育環境満足度】 複数調査項目の平均値（備前市学習環境に関する調査より）

【貸出冊数・学校図書満足度】 貸出冊数の達成率と学校図書満足度平均値（備前市学習環境に関する調査より）

【希望進路意識・進路決定率】 希望する進路が決定している生徒の割合（進路意識調査・進路決定調査より）

課題に対する主な取組

課 題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行 (万円)	アウトプット (どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム (どれだけの成果が得られたか)
ICT環境を活用した教育の充実	電子黒板の導入	主体的・協働的な学びを実現するための環境整備	1億6,358万円	電子黒板を178台購入した。	主体的・協働的な学びをより一層深めることができた。
ALTを活用した外国語教育環境の充実と周知	ALT配置事業	直接雇用により配置するALTの活用	4,004万円	ALTの学校配置率 73%	R6年度岡山県学力・学習状況調査では、中学1年生は1.3ポイント、中学2年生は1.2ポイント県平均正答率を下回っている。
学校図書館司書全校配置による教育環境の充実と周知	学校図書館運営事業	学校図書館の充実及び児童の読書活動の推進を図る。	5,469万円	小中学校全校に図書館司書を配置した。	「学校図書館の現状に関する調査(文科省R2)」にある貸出冊数(年間1人あたり)の小学生冊、中学生冊を大幅に上回っており、読書活動の推進が図られている。
片上高等学校の魅力化推進及び周知	夜食の提供	生徒の学習意欲の向上や健康管理を目的として夜食費を補助する。	60万円	片上高等学校の生徒の夜食を提供した。	生徒が学習前に夜食を食べることで学習意欲の向上が図られている。
学校の再編整備の検討	事業実施なし	事業実施なし	-	実績なし	実績なし
学校等教育施設の老朽化対策	老朽化した施設の改修事業	グラウンドの改修及びトイレの洋式化	4,125万円	・備前中学校・吉永中学校のグラウンドの改修 3,465万円 ・伊部小・伊里小のトイレ洋式化 660万円	老朽化した施設を改修することで、安全な学習環境を整えた。
物価高騰下での小・中学生に係る学校教育費用の保護者負担軽減	給食費に係る保護者負担軽減	市立小・中学校に在籍する児童・生徒の給食費無償化	1億2,718万円	市立小・中学校に在籍する児童・生徒の給食費無償化を実施した。	小・中学生の給食費に係る保護者負担軽減
	小・中学生に係る学用品費の保護者負担軽減	市立小・中学校へ通学する児童・生徒に係る学用品費の納付免除	3,099万円	市立小・中学校に在籍する児童・生徒に係る学用品費を納付免除とした。 ・小学校在籍児童の納付免除 1,371万円 ・中学校在籍生徒の納付免除 1,728万円	小・中学校での指導上必要な学用品費の保護者負担が軽減できた。
	小学校新入生に係る学用品費の保護者負担軽減	小学校新入生への通学かばんの支給及び学用品費の納付免除	176万円	小学校新入生へ通学かばんを支給した。	小学校の入学にあたり必要な学用品費の保護者負担の軽減ができた。
国際バカロレアPYP・MYP認定校に向けた取組と周知	IB教育に関する知識の向上	IBワークショップへの参加	2,823万円	IBワークショップ小学校119名、中学校62名参加した。	IBワークショップ小学校119名、中学校62名参加し、IB教育に関する知識を習得した。

課題に対する主な取組

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 (課題解決状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1人1台端末の更新を行うとともに、ICT機器、ツールの活用による協働的な学びを意識した授業改善を図り、端末の持ち帰りなどにより、AIドリル等を活用した個別最適な学びを推進しています。しかしながら、活用頻度、活用の質ともに学校差が生じている状況もあります。</li> <li>○ALTを各学年1名をベースに増員配置し、子どもたちにとって英語でのコミュニケーションがより身近な環境を構築しています。その上でALTを有効活用した授業実践やその他教育活動の在り方について模索していきます。</li> <li>○教員と学校図書館司書とが連携し、子どもの読書活動や探究的な学びを促す図書資料の活用を推進しています。1人1台端末活用促進に伴い書籍の活用頻度が減少しないよう、授業における有効活用を模索していきます。</li> <li>○片上高等学校においては、卒業後を見越したキャリア教育の充実に取り組んでいます。</li> </ul>
	教育総務課長 行正 英仁 教育政策課長 春森 弘晃 学校教育課長 柴田 洋輔	【翌年度の取組目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1人1台端末や各教室の電子黒板の有効活用について研修を深めていきます。その上で授業と家庭学習の連動を図りつつ、協働的な学び・個別最適な学びを推進し、良い取組を市内で共有することで、市内の活用状況の平準化を図ります。</li> <li>○ALTを配置し、コミュニケーションへの意欲や関心を高め、外国語教育の充実を図っていきます。</li> <li>○教員と学校図書館司書とが連携し、これまで以上に子どもたちが読書に親しむことができたり、学習活動の中で図書を有効活用できたりするような取組を推進していきます。</li> <li>○片上高等学校においては、社会を生き抜く力の育成を図りつつ卒業後を見越したキャリア教育を推進していきます。</li> </ul>
二次評価者	役職	教育振興部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器の有効活用により個別学習の推進、情報収集能力の向上だけでなく、先生の働き方、効率化を進めるうえでも、今後も重要であると考えます。より有効活用できるように研究していきましょう。</li> </ul>
	氏名	久保山 仁也	<ul style="list-style-type: none"> <li>○OALTについては、現場等から意見をよく聞き、継続させるものは継続し、見直しするものは見直し、課題点も分析しながら、今後についてもよく関係者と協力しながら検討していきましょう。</li> <li>○図書館司書については、生徒の学びや心の成長をサポートする重要な役割を担っていること踏まえ、楽しんで読書ができる、関心喚起となるよう取組を進めていきましょう。</li> <li>○多様な生徒のニーズに応えるべく、社会的自立の支援を図り、授業の質を高めながら、個々が幸福と感じられるようにサポートしていきましょう。</li> </ul>

## 政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

## 施策04 歴史文化の活用と伝統文化の継承

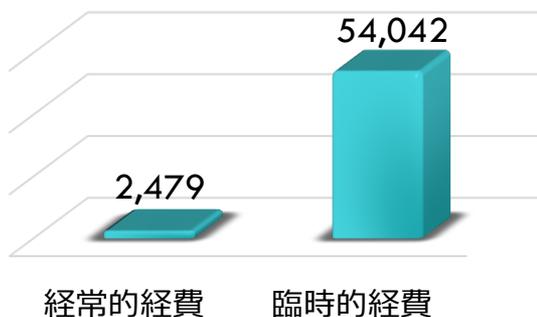
## 施策の方向性・目標（総合計画より）

本市の歴史・文化を守り、未来に伝えるための保存と活用を進める中、市民一人ひとりが地域の歴史や文化を学び、そこに住むことに誇りや喜びを感じられるまち、新たな文化的魅力の創出と情報発信による交流が生まれるまちを目指します。  
また、誰もが身近なところで、いつでも、気軽に芸術文化に触れることができるまちを目指します。

経費の内訳（千円）



特定財源の活用（千円）



※特別会計は除く

## 現状と解決すべき課題

## 【歴史・文化に関する調査・整備】

- ・歴史・文化に関する調査ができていないものや、調査がされていても活用のための環境整備等ができていないため認識されていないものがあり、市民へ周知できるよう調査や整備が必要です。

## 【歴史・文化に関わる人材確保】

- ・歴史・文化や芸術活動を重要であるとする市民が少なく、特に若者の関心が低い状態です。
- ・地域の歴史・文化等に係る人材を地域ぐるみで確保していくことが必要です。

## 【歴史・文化の市民理解やPR活動】

- ・歴史や文化を学び、地域の成り立ちを理解した上で、守り伝え、活かしながら、その活動を知る機会を設けるとともに、文化遺産の魅力を発信することが必要です。
- ・ゆとりとおいしい実感できる心豊かな社会を実現するため、芸術文化に気軽に触れる機会を提供することが必要です。

## 【複数ある文化施設の整理】

- ・文化施設は、老朽化等により大規模改修や耐震化等が必要な施設が多い状況です。また、類似施設もあり、機能の集約化などについても検討することが必要です。

## 成果指標（達成したい目標）

市内文化財の新規指定等の候補件数（累計）（件）



### 成果指標の分析

目標値には達していないが、今年度祭礼の調査等を実施し、新規指定候補の増加を目指す。

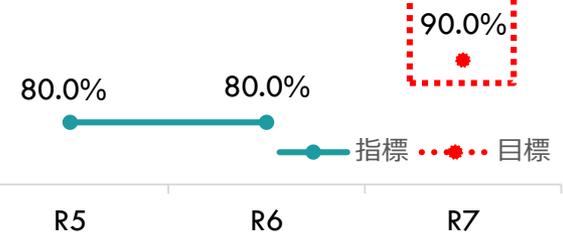
論語かるた大会の参加者数（人）



### 成果指標の分析

目標値には達してはいるが、高い水準にあるため、引き続き参加者数増加を目指す。

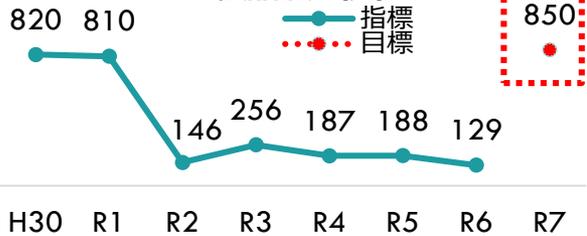
出前授業等の市内教育関連事業で行った内容の理解度



### 成果指標の分析

生徒の理解度は高かった。今後も文化財への関心を持ってもらえるよう、解りやすい授業をめざす。

文化施設開催の講座・ワークショップ参加者数（人）



### 成果指標の分析

昨年度と比較し減少しているが、参加者の反応は好評であるため、今後SNS等により若者層への情報発信を行い、目標達成を目指す。

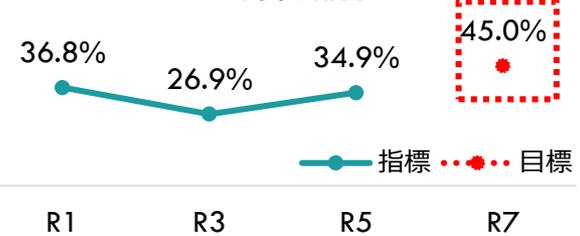
文化関連で発信したYouTube動画再生回数（累計）（回）



### 成果指標の分析

動画の掲載数が少なく、再生数は伸び悩んでいる。現在はX等のSNSを通じて情報発信をしており、今後はXを中心とした発信に切り替える。

芸術文化に接する機会があった市民の割合



### 成果指標の分析

コロナの影響前の令和元年の数値までほぼ回復した。既存事業にカスタマイズを加えつつ、新規事業も打ちながら魅力ある芸術文化事業の発信に努める。

指標の説明

【市内文化財の新規指定等の候補件数（累計）】 対象文化財の調査件数（文献調査及び現地調査）

【出前授業等の市内教育関連事業で行った内容の理解度】 出前授業等における児童へのアンケート調査により回答のあった割合

【芸術文化に接する機会があった市民の割合】 市民意識調査により回答のあった割合

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行 (万円)	アウトプット (どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム (どれだけの成果が得られたか)
歴史・文化に関する調査・整備	市内遺跡調査	井田跡の確認調査	200万円	井田跡の水路・堤構築方法（基礎）の確認	井田跡の文化財的価値を判断するための基礎的データを得る事ができた。
歴史・文化の市民理解やPR活動	地域の特色ある埋蔵文化財活用事業	ワークショップ「鏡・とんぼ玉をつくろう」を開催「備前焼」に関する企画展を開催	210万円	トンボ玉をつくろう4回（1日2回×2日） 鏡工人2回（1日2回×1日） 縄文土器をつくろう1回 窯跡を歩く1回 企画展「海の古備前山の古備前」を開催	ワークショップ参加者 102人 企画展来場者 717人
複数ある文化施設の整理	文化施設の今後の方針検討	文化施設の集約化	—	備前市美術館に各文化施設の機能を一部集約化。	市外を含む多くの人に各施設の所蔵品の魅力を発信できた。
歴史・文化に関わる人材確保	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業（論語かるた）	論語かるた大会の実施	14万円	論語かるた大会参加者数86人 （市外小学校参加・ボランティアガイド協会や緑陽高校生のスタッフ協力）	子供たちをはじめ市内外の多くの人に旧閑谷学校の魅力を発信し、地域の活性化につなげる事ができた。

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 (課題解決状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遺跡の調査については報告書の作成、文化財の活用についてはワークショップ・企画展の開催など計画どおりに実施できています。</li> <li>○文化施設の集約化については、新設の備前市美術館に一部集約を行っているが課題解決にはつながっていません。</li> </ul>
	生涯学習課長 川淵 裕之 文化スポーツ振興課長 杉山 麻里	【翌年度の取組目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○埋蔵文化財管理センターが実施するワークショップについては、市内小学校への出前講座として行っていきます。</li> <li>○施設の集約化については、全庁の取り組みとして行います。</li> </ul>

二次評価者	役職	生涯学習部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出前授業等への理解度は高い状況となっており、引き続きワークショップ等を開催していきましょう。</li> <li>○また企画展等を通じて市民の歴史文化への関心を高めるとともに、新美術館とも連携して取り組みましょう。</li> </ul>
	氏名	杉田 和也	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共施設の集約化については、その有効活用と適正な管理に向けて、全庁的な取り組みましょう。</li> </ul>

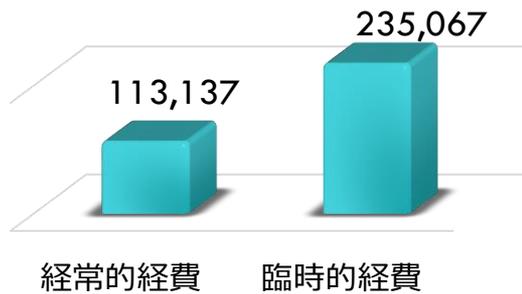
## 政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち（教育・文化）

## 施策05 スポーツ・レクリエーション活動の推進

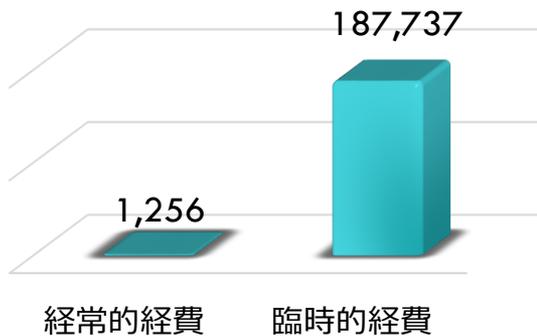
## 施策の方向性・目標（総合計画より）

すべての人々が「する」「みる」「ささえる」といったさまざまな形でスポーツに参画することで、一人ひとりが生きがいや元気を持って生活するとともに、スポーツを通じて地域資源を有効に活用した施策を展開することにより、活力あるまちを目指します。

経費の内訳（千円）



特定財源の活用（千円）



※特別会計は除く

## 現状と解決すべき課題

## 【スポーツ施設の整備】

- ・スポーツ施設の情報発信や利便性向上などにより、施設の利用促進を図るとともに、設備の充実やバリアフリー化など、誰もが気持ちよく利用できる環境整備が必要です。
- ・点在する施設及び老朽化する施設については、公共施設個別計画に基づき施設の存続や除却を判断し、利用者ニーズと財政負担を踏まえた施設整備も求められます。

## 【生涯スポーツの充実】

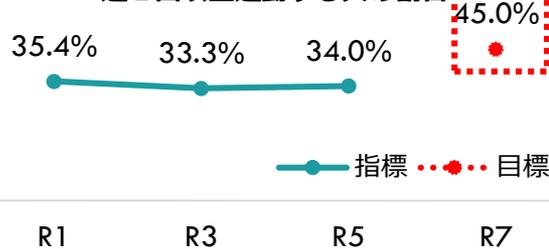
- ・スポーツを定期的に行っている市民の割合（スポーツ実施率）が減少傾向にあり、それぞれの年齢、嗜好・目的などに応じてスポーツに親しむことができる環境が求められています。
- ・20歳代から50歳代までの年代は、労働や子育てにより1週間のうち1日も運動しない人の割合が60%を超えている状況であり、スポーツに触れる機会の創出やきっかけづくりが必要です。

## 【スポーツによる地域活性化】

- ・県内外から参加できるイベントの開催やスポーツ環境の整備など、スポーツを通じたまちの活性化に向けた取組が必要です。
- ・備前市の持つスポーツ資源と「観光」「文化」などの地域資源を活用した新たな価値の創出が求められています。

## 成果指標（達成したい目標）

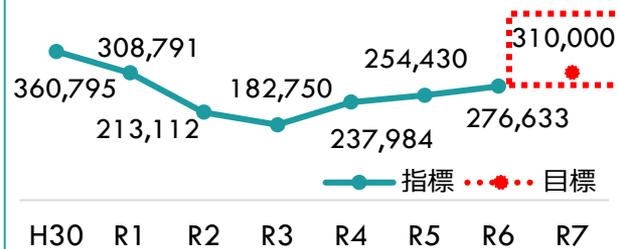
### 週1回以上運動する人の割合



#### 成果指標の分析

習慣となるよう、スポーツに触れる機会の創出やきっかけづくりを推し進めていく。

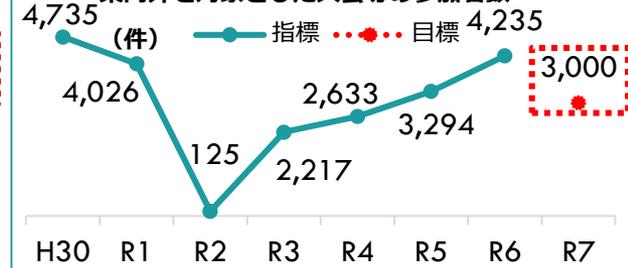
### 市内体育施設の利用者数（人）



#### 成果指標の分析

新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなっており、予防対策を講じつつ、利用者数の増加に向けて受入態勢等を整備していく。

### 県内外を対象とした大会等の参加者数（件）



#### 成果指標の分析

新型コロナウイルス感染症の影響が薄れつつあり、参加者数が増加した。  
予防対策を講じたり、少数での開催・実施なども考慮したりするなどにより、着実にいい成果を出していく。

### 市内中学校部活動の地域移行に伴う

#### 指導者登録人数



#### 成果指標の分析

国の実証事業を活用し、市内中学校5校のうち土日の部活動地域移行について4校で実施。  
地域での受け皿の整備に向け、指導者の確保に努めていく。

【週1回以上運動する人の割合】 市民意識調査により回答のあった割合

【市内体育施設の利用者数】 久々井、日生、吉永運動公園の年間利用者数の合計

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行 (万円)	アウトプット (どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム (どれだけの成果が得られたか)
スポーツ施設の整備	利用者のニーズに対応した施設環境の整備	体育施設の改修・修繕	10,195	体育施設の改修・修繕（15件）、整備（3件）、解体撤去（1件）	経年使用による改修・修繕費及び施設整備を行った。 改修費等前年度比：-46.6%
生涯スポーツの充実	年代を問わずスポーツに触れる場と機会の充実	各種スポーツ教室や出前スポーツ教室への参加促進	13,571	スポーツフェスティバル（1,805人）やそれ以外の各種スポーツ教室等（13件、2,430人）の開催	参加者前年度比：+28.6% （R5：スポーツフェスティバル1,501人 それ以外の各種スポーツ教室1,793人） 今後も参加者の増加に向けて実施可能なスポーツ教室等の開催を計画
スポーツによる地域活性化	スポーツと地域資源の融合による地域の活性化の推進	市内中学校部活動の地域移行の推進	96	市内中学校部活動の地域移行に係る指導者の委嘱。（指導者登録人数：8名）	市内中学校の土日の部活動に対し、地域移行に係る指導者を派遣。（延べ実施数：6校、130日）
スポーツによる市民の一体感	プロスポーツ観戦・応援ツアーの実施	本市出身又は本市にゆかりのあるスポーツ選手に対し、一体感をもった応援及び激励	12,877	オリックス・バファローズ観戦・応援ツアー（市民551人）、ロサンゼルスメジャーリーグ応援ツアー（中高生197人）	市民及び次代を担う中高生のスポーツに関わる感情を醸成するとともに、スポーツ振興に寄与することが可能となった。

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 (課題解決状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経年劣化による体育施設の修繕は、緊急性や優先度により対応していくが、施設の統廃合に係る全庁的な取り組みとして検討する必要があります。</li> <li>○スポーツフェスティバル等のイベントを通じて、市民がスポーツに触れる場の提供を継続していきます。</li> <li>○中学校の地域展開は、国の委託事業を活用し実証事業を継続しながら、種目を増やすよう指導者等の確保に努めます。</li> </ul>
	文化スポーツ振興課長 杉山 麻里	【翌年度の取組目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育施設についても全庁的に取り組む施設の統廃合として検討します。</li> <li>○市民が「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で積極的にスポーツを楽しむきっかけづくりに取り組みます。</li> <li>○生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に参加できるよう地域全体で環境を整備します。</li> </ul>
二次評価者	役職	生涯学習部長	○体育施設の修繕については、その必要度や緊急度を考慮するとともに、施設の統廃合に係る全庁的な取り組みと併せて検討していきましょう。
	氏名	杉田 和也	○体育施設の利用者数や大会参加者数は、コロナ禍前の水準に向けて回復しており、今後もスポーツ教室の開催等によりスポーツに親しむ環境を整えていきましょう。